

さらなるバリアフリー 社会実現を

『登別身体障害者福祉協会』は、昨年、設立30周年の節目を迎えることができ、多くの方々からお祝いのメッセージなどをいただき心から感謝を申し上げます。また、今日まで当協会の活動を支えてくれた多くの諸先輩方に対しても併せて心から感謝申し上げます。私たちの会は、会員相互の交流と親ばくを目的に活動しており、道内の福祉施設の見学や1泊2日での研修旅行、レクリエーション、障害を持つ婦人の健康教室、他市町村の障害者協会との交流などの行事をとおして、家に閉じこもりがちな会員に、外に出てもらうための工夫などもしております。また、しんた21を活動の拠点に、機能訓練も含めて、書道や陶芸、ちぎり絵を始めさまざまな趣味的な活動も積極的にっております。



▲身体障害者福祉協会のみなさん

デンマークとの出会い

昨年は、私にとつてとっても充実した年になりました。何よりも登別市中

さらには活動内容などを工夫し、会員に満足していただけるような会にしていきたいと考えております。2002年は、より一層ノーマライゼーション理念の普及、バリアフリーの社会の実現のため頑張っていきたいと思っております。
(常盤町/71歳 熊谷昭吾さん)

前略2002年の私

あべこの日が 将来思い出



登別東町/18歳 追分志保さん

2001年4月。私は学校で配布された真新しいノートパソコンを前に石になっていた。

『起動の仕方』が分からない。『電源の切り方』が分からない。パソコンの話をするクラスメイトを見てひそかに落ち込んでいた。

先日、IT講習会のアシスタントをさせていただく機会があった。参加された方のほとんどがパソコン初体験。椅子に座ったまま固まる初老の男性を見て4月の自分を思い出した。

そして、最終日の講習が終わった後、『パソコン買おうかな』と笑顔で話すご夫婦をみてパソコンを楽しんでいるところが始めたころがよみがえってきた。

思い出すということの後ろ向きだと言う人がいる。でも私はそうは思わない。過去を思い出させるのはそれだけ一生懸命その日を過ごしたから。

2002年のすべての日が将来思い出させるくらい意味があり充実したものになれば良いと思う。

学生海外派遣事業でデンマークへ行ったことが、一番心に残っています。

デンマークの学校は休み時間が長く、授業では積極的に発表し、先生に当ててもらうために指を鳴らしてアピールしたり、絵やゲームなどを使って楽しそうに勉強していました。また、男女の区別なくいつも一緒にサッカーやゲームをして遊んでいて、自然でいいな

と思いました。

私は、この派遣に参加するまでは、自分の身の周りのことにしか考えを持つことがありませんでした。しかし、デンマークに行つて、世界のことにも興味を持つようになりました。

デンマークについてもっと深く知りたいし、ほかの国についても、知りたと思うことが増えてきました。

また、会話などで少し戸惑ったこともあったけど、わかっただけでもよかったときはとてもうれしかったです。そして、国や言語の違いはあっても、心は通じ合えるということを強く感じた瞬間でもありました。

国境を越えて交流をするということは、世界が一つにならなければならぬ今、とても大切なことだと思います。これからも、デンマークでの出会いを大切に、また、たくさんの人たちと交流していきたいと思っております。

(新川町/14歳 佐々木由佳さん)



▲平成13年登別市中学生海外派遣団